

## 32 「地域包括支援センターによる医療連携に向けたケアマネジャー支援」

志摩市ふくし総合支援室 前田小百合、小川美枝

### 1 問題意識

利用者に質の高いサービス提供を行うためには、医療と福祉・介護の連携が不可欠であることは誰もが理解している。しかし、介護福祉士を基礎資格とするケアマネジャーが多数を占める中で、医療への苦手意識や敷居の高さから連携において消極的になるケースがある。地域包括支援センターが「サービス担当者会議は、主治医が参加できるように工夫しましょう」「医師への報告や連絡を入れましょう」といった提案や研修会をただけではなかなか実行に移せない。苦手な主治医の場合、ケアマネジャーは電話を入れることさえも億劫ではないだろうか。

地域包括支援センターは、医師とケアマネジャーが同じテーブルで話し合える場を増やしたり、医療機関とケアマネジャーによる共通の書式を開発し活用できるように医療機関へ働きかけたりするなど、ケアマネジャーがよりよい連携ができるように具体的な支援策を提案していく必要があると考えた。

### 2 取組内容

#### (1) 地域包括ケア会議の開催

志摩市ふくし総合支援室（地域包括支援センターを含む）では、市内を5地域（日常生活圏域）に分けて、それぞれの地域で年3回ずつ地域包括ケア会議を開催している。ケアマネジャーや介護サービス事業者、医師、病院相談員、民生委員児童委員、自治会役員などが集まり、地域レベルの福祉課題を情報共有し、解決のための社会資源の開発などについて議論を交わしている。

ケアマネジャーが医療機関を始めとする地域のいろいろな社会資源と出会い、知識を得ることのできる場でもある。

※地域包括支援センターを地域包括ケアのための拠点と考え、対象を高齢者分野に限定せず、障害者や児童などの分野にかかわる人にも広く参加を呼びかけている。

#### (阿児地域包括ケア会議の例)

メンバー	テーマ（参加者がグループを選択する）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・居宅介護支援事業所</li> <li>・介護サービス事業者</li> <li>・県立病院地域連携室 ・内科医</li> <li>・小児科医 ・歯科医（矯正歯科含む）</li> <li>・民生委員児童委員 ・自治会長</li> <li>・保育所長 ・児童館長</li> <li>・地域内の小中学校長 ・教育委員会</li> <li>・社会福祉協議会</li> <li>・障害者生活支援センター</li> <li>・総合保健センター</li> <li>・地域ふくし総合支援センター</li> <li>・ふくし総合支援室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1 グループ 「ケアマネジャーと医療機関の連携を考える」</li> <li>○2 グループ 「認知症の人が地域で安心して暮らしていくためには？」</li> <li>○3 グループ 「判断能力が不十分な人を悪徳商法から守るために」</li> <li>○4 グループ 「ボランティアを増やすには？」</li> <li>○5 グループ 「子育て不安のある母親を支援していくためには？」</li> <li>○6 グループ 「成長期の子どもの問題を考える」</li> </ul>
※地域によってメンバー構成に違いあり。	※話し合いたい課題を提案することが可能。

## (2) 地域連携推進会議の開催

年3回、市内の医療・保健・福祉の代表や消防署・警察署などの関係機関が集まり、地域包括ケア会議で話し合われた内容の中で市レベルの福祉課題を情報共有し、解決のための社会資源の開発などについて議論を交わす場。

委 員	内 容
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県立志摩病院地域連携室相談員（社会福祉士）</li> <li>・ 市立志摩市民病院地域連携室相談員（社会福祉士）</li> <li>・ 民生委員児童委員協議会連合会長兼志摩地区民生委員児童委員協議会代表</li> <li>・ 浜島地区民生委員児童委員協議会代表</li> <li>・ 大王地区民生委員児童委員協議会代表</li> <li>・ 志摩地区民生委員児童委員協議会代表</li> <li>・ 阿児地区民生委員児童委員協議会代表</li> <li>・ 磯部地区民生委員児童委員協議会代表</li> <li>・ 市内居宅介護支援事業所代表</li> <li>・ 市内介護サービス提供事業所代表（医師）</li> <li>・ 鳥羽警察署生活安全課長</li> <li>・ 志摩広域消防署防災係長</li> <li>・ 志摩市健康推進課保健師</li> <li>・ 志摩市地域福祉課高齢者・障がい福祉第一係長</li> <li>・ 志摩市介護保険課介護給付係長</li> <li>・ 浜島地域ふくし総合支援センター係長</li> <li>・ 大王地域ふくし総合支援センター保健師</li> <li>・ 志摩地域ふくし総合支援センター係長（保健師）</li> <li>・ 阿児地域ふくし総合支援センター係長</li> <li>・ 磯部地域ふくし総合支援センター保健師</li> <li>・ ふくし総合支援室（室長・保健師・社会福祉士・主任ケアマネジャー）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域包括支援ネットワーク全体のシステムの構築に関する事</li> <li>○ 地域連携推進のために必要な仕組みづくりに関する事</li> <li>○ 要援護者を発見するための仕組みづくりに関する事</li> <li>○ 要援護者のニーズ把握を行うための仕組みづくりに関する事</li> <li>○ 関係機関との連携と調整に関する事</li> <li>○ 市全体の社会資源の有効活用やニーズに合わせた開発に関する事</li> <li>○ 市全体の福祉力を高めていくための事業に関する事</li> <li>○ 支援困難ケースの検討及び対応後の報告、地域包括ケア会議の報告と報告に基づく検討</li> </ul>

### [これまでの協議テーマの例]

- ・ 高齢者虐待対応における関係機関の連携のあり方
- ・ 地域の見守りにおける行政や社協・民生委員・消防署・警察署の連携について
- ・ 夜間・休日の緊急対応における関係機関の役割分担について
- ・ 身寄りがない一人暮らし・近所づきあいのない転入高齢者・認知症で一人暮らしといった市民が救急搬送された場合の連携について

## (3) 主治医への連絡票

ケアマネジャーが医療機関との連携をとるための第一歩として、志摩市ふくし総合支援室（地域包括支援センター）と志摩市介護サービス事業者連絡会居宅介護支援事業所部会が共同し共通の書式を開発した。

## [完成までの流れ]

## ①ケアマネジャーから、医師との連携に悩む声・・・

「いつ連絡したら迷惑にならないのかわからない」「いったいあなたは何が聞きたいのか」と医師に言われた」「なぜ、ケアマネジャーに情報提供をしなければいけないのかと言われた」など。



## ②医療機関とケアマネジャーが同じテーブルで話し合い

平成20年度阿児地域包括ケア会議において、「ケアマネジャーと主治医の連携を考える」グループを設けて、年間を通して医師やケアマネジャーが協議。

## [医師の発言]

- ・「ケアマネジャーと連絡を取りたくても、いつも訪問に出かけていて不在」
- ・「診察時間の時間帯にサービス担当者会議の案内が来る。夜なら出席できるのに」



## ③連絡票の原案作成

志摩市介護サービス事業者連絡会居宅介護支援事業所部会において、「ケアマネジャーから主治医への連絡票」原案を作成。



## ④志摩医師会との交渉

原案を持参して志摩医師会長を訪問。志摩医師会理事会にて「ケアマネジャーから主治医への連絡票」を使用することについて協議を依頼。



## ⑤志摩医師会からの回答

ケアマネジャーが市内の開業医へ個別に説明と依頼を行い了解が得られたら実行すれば良い、ケアマネジャーの努力次第と回答があった（連絡票の中身を一部修正）。



## ⑥志摩市介護サービス事業者連絡会居宅介護支援事業所部会を拡大して、市内居宅介護支援事業所へ呼びかけた会議を開催

居宅介護支援事業所部会では、市内開業医一覧表をもとに内科・整形外科・歯科など要介護者が受診する可能性がある医療機関を整理した。

それぞれのケアマネジャーが一人あたり約4～5件の開業医を訪問して説明と依頼をすることを決めた。



## ⑦約1カ月をかけて開業医を訪問・実施（試運転）

直接訪問することで、医師から介護や福祉に関するさまざまな意見を聞くことができた。ほぼすべての開業医から、「連携は大切だから」と了解を得られて、平成21年夏以降「ケアマネジャーから主治医への連絡票」の試運転にこぎつけた。

先生へ

送信日 年 月 日 ( )  
事業所名  
住所・電話番号・FAX番号

**「担当ケアマネジャーの \_\_\_\_\_ です」**

今回、貴院におかかりの \_\_\_\_\_ 様（志摩市 \_\_\_\_\_ 町 \_\_\_\_\_ ）  
の担当をさせていただくことになりました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

**【FAXをお送りした主旨】**

- ①担当ケアマネジャーになったことのごあいさつ
- ②ケアプランを作成するにあたり、病状等についてのご助言をお願いしたい
- ③サービス担当者会議への出席をお願いしたい
- ④その他（ \_\_\_\_\_ ）



ご多忙のところをまことに恐縮でございますが、ご都合のよろしい日時と連絡方法を  
下記にてFAXしていただくと幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

**主治医回答欄**

- 直接会います（時間帯： \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 時頃）
- 電話をください（時間帯： \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_ 時頃）
- その他（ \_\_\_\_\_ ）

連絡事項



#### （４）多職種連携による事例検討会

医師・ケアマネジャー・介護サービス事業者を中心とした事例検討会を開催。職種によって、個人情報保護や守秘義務の考え方が違ったりすることがあり、職種の違いが連携をする際の壁になることがある。

そこで、ケアマネジャーの事例発表と医師のミニ講義・多職種によるグループワークを柱とした連携のための事例検討会を開催するに至った。

#### 《平成 21 年 7 月 14 日開催の流れ》

- 事例発表「虐待ケースにおける医療と福祉の連携」～ケアマネジャー
- ミニ講義「連携と地域医療と私」～志摩地域医療福祉センター長
- グループワーク
- まとめ（医師とケアマネジャーからコメント）

#### 《アンケート結果から》40 人分

##### ●参加者の職種

- 介護福祉士（10 人） ○看護師（10 人）
- ケアマネジャー（8 人）○社会福祉士（2 人）
- その他（ヘルパー、介護職、医師、歯科衛生士等）（9 人） ○無回答（1 人）



##### ●多職種による事例検討会についての参加者の感想

- 普段、多職種の人たちと話をする機会が少ない。
- いろいろな事業所の人たちの話が聞けてよかった。
- 医療との連携が難しい。医療関係者に「介護」を理解してもらいたい。医師だけでなく、看護師、医療ソーシャルワーカーにも参加してもらいたい。顔見知りになっていくことが大切だと思った。
- 改めて個人情報の重大さを感じた。他の事業所とグループワークをすることによって、いろいろな考えがあることも感じ、とても勉強になった。
- このような情報共有は、この志摩の専門職が日頃どう思っているかを知る機会であり、それ自体が素晴らしい。お互いを思いやる心につながり、チームとしての力を発揮できるのだと思う。自分自身の振り返り、相互評価となり、プロフェッショナリズムの学習につながると思う。
- 自分からの視点ではなくいくつもの視点から見るようにしたいと思うが、なかなか難しい。
- 事業所内での連携はとれているが、他事業所との連携はどこの事業所でも難しいことがわかった。
- 多職種が集まったことで、自分では思いもよらなかった視点があった。そうした視点に気づくことができて良かった。